

令和4年度 (政治・経済探究) シラバス

教科名	科目名	学年	学科	単位数	使用教科書
公民科	政治経済探究	3	国際英語科	2	『改訂版高等学校 政治・経済』 (数研出版)

評価の観点

a【関心・意欲・態度】	b【思考・判断】	c【技能・表現】	d【知識・理解】
社会の動きを、自らの行動と併せて考えることができているか。	資料集や具体的事例等を通じて、考えを深めることができているか。	様々な事象に対して、自らの意見を持ち、考えを述べることができたか。	基礎的概念や重要語句を理解し、社会の事象をつかむことができたか。

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 政治・経済の学習を基礎に、時事的な問題について探究を深め、国内外の現状について理解を深める。 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。 現代における政治、経済、国際関係などに関する諸課題について主体的に考察できる。 現代における政治、経済、国際関係などに関する諸課題について公正な判断力を身につける。 良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。
---------	--

月	単元名	単元の目標	配当時間	学習内容	評価規準・評価方法	進度
4	第1節 現代と政治	・基本的人権と議会制民主主義を尊重擁護することの意義を理解し、民主政治の本質について把握する。	1	日常生活の中に「政治」との関わりを実感する	1. 日常生活の中に「政治」との関わりを実感できる(関心)	
	第2節 民主政治のあゆみ	・民主主義の成立過程と各国の政治制度を概観し、わが国の政治的特質を理解する。	1	民主政治の歴史を理解する	2. 民主政治の歴史を理解できる(知識)	
	第3節 民主政治の基本原則とその展開		1	民主政治の価値・大切さを理解し、評価する	3. 民主政治の価値・大切さを理解し、評価できる(思考)	
	第4節 民主政治の試練と課題		1	主な政治体制の違いを理解する	4. 主な政治体制の違いを理解できる(知識)	
	第5節 政治体制の比較		1	時事問題から主要国の政治体制について理解する	※確認テスト・評価シート	
5・6	第1節 日本国憲法の基本的性格	・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義などについて理解する。		明治憲法と比較して、現憲法の特徴を理解し、より民主的であることがわかる	1. 国会・内閣・裁判所のしくみについて、その役割・関連を理解し、時事問題への関心を深めさせる(知識・関心)	
	第2節 基本的人権の保障	現実の「自衛隊」や「軍事的諸問題」の実態を把握し、平和主義と関連して評価できる		憲法で規定されている権利を身近な事例で示すことができ、日常の諸問題を憲法の条文と関連づけて考えることができる	2. 明治憲法と比較して、現憲法の特徴を理解し、より民主的であることがわかる(知識・思考)	
	第3節 日本国憲法の平和主義	国会・内閣・裁判所のしくみについて、その役割・関連を理解し、時事問題への関心を深める		・平和主義をめぐる現実の動きを理解し、平和憲法のもとでの安全保障の在り方について考察する。沖縄の基地問題についても理解を深める。	3. 主権者としてどう政治に関われるかを意識させる(関心)	
	第4節 国会のしくみと役割			主権者としてどう政治に関われるかを意識する	4. 憲法で規定されている権利を身近な事例で示すことができ、日常の諸問題を憲法の条文と関連づけて考えることができる(関心・思考)	
	第5節 内閣のしくみと役割			国会や政府内で議論される主要な政治課題について理解する	5. 現実の「自衛隊」や「軍事的諸問題」の実態を把握し、平和主義と関連して評価できる(技能・思考)	
	第6節 裁判所のしくみと人権保障					

<p>第7節 地方自治のしくみ住民生活</p> <p>第1節 戦後政治と政党</p> <p>第2節 選挙制度のしくみ</p> <p>第3節 世論と現代民主政治の課題</p>	<p>地方自治における沖縄県の抱える課題についても理解を深める。</p> <p>民主政治の本質や現代政治の特質について把握し、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治のあり方及び主権者としての政治参加のあり方について考察する。</p>	<p>戦後の日本政治のあゆみと特徴を理解する</p> <p>現実の選挙に対し、その争点や結果について主体的に考える</p> <p>望ましい選挙制度について自分なりの考えをまとめる</p> <p>マスコミの世論形成に対する影響を分析するとともに、マスコミに対する個人のあり方を考える</p> <p>各マスコミの選挙報道内容を比較する</p>	<p>※確認テスト・評価シート</p> <p>1. 現実の選挙に対し、その争点や結果について主体的に考えることができるようになる（関心・技能）</p> <p>2. 戦後の日本政治のあゆみと特徴を理解させる（知識）</p> <p>3. 望ましい選挙制度について自分なりの考えをまとめる（思考）</p> <p>4. マスコミの世論形成に対する影響を分析するとともに、マスコミに対する個人のあり方を考えさせる（思考）</p> <p>※確認テスト・評価シート</p>
<p>7</p> <p>第1節 国際社会の特質</p> <p>第2節 国際社会と国際法</p> <p>第3節 国際社会の組織化</p> <p>第4節 戦後国際政治の展開</p> <p>第5節 日本の国際的地位と役割</p> <p>第1節 人間と経済活動</p> <p>第2節 資本主義経済の発展と変容</p> <p>第3節 社会主義経済とその変容</p>	<p>国民国家と比較して国際社会の特質を理解する</p> <p>国際連合などの国際組織の役割をその課題を理解する</p> <p>戦後国際政治の流れを概観し、主な国際紛争について、その性質を歴史的・国際的観点から考える</p> <p>国際社会における日本の位置と期待される役割とは何かを考える</p> <p>身近な生活から経済活動の本質を考察する。</p> <p>「資本主義経済」と「社会主義経済」のしくみ・特徴を理解させ、それぞれの長所・短所について考える</p>	<p>・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解し、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察する。</p> <p>人種や民族にもとづく差別などの問題の背景についても理解し、どのような取り組みが求められるか考察する。</p> <p>難民問題と日本の対応について考える。</p> <p>経済活動の意義と、資本主義経済と社会主義経済の基本的な仕組みについて学ぶ。グローバル化のもたらす課題について考察する。</p> <p>世界における富の偏在と格差の拡大について考察する</p>	<p>1. 国民国家と比較して国際社会の特質を理解させる（知識）</p> <p>2. 戦後国際政治の流れを概観する（知識・関心）</p> <p>3. 主な国際紛争について、その性質を歴史的・国際的観点から考えさせる（思考）</p> <p>4. 国際連合などの国際組織の役割をその課題を理解させる（知識・思考）</p> <p>5. 国際社会における日本の位置と期待される役割とは何かを考えさせる（思考）</p> <p>※確認テスト・評価シート</p> <p>1. 「資本主義経済」と「社会主義経済」のしくみ・特徴を理解させ、それぞれの長所・短所について考えさせる（知識・思考）</p> <p>2. 経済問題の基本を理解し、どのような経済制度がよいのかを考えることができる力をつけさせる（思考）</p> <p>※確認テスト・評価シート</p>
<p>8</p> <p>9</p> <p>第4節 家計・企業の働きと政府の役割</p> <p>第1節 市場経済のしくみと物価の動向</p> <p>第2節 金融のしくみ</p>	<p>「経済」に関する基本的知識（しくみや経済用語の意味など）を理解する</p> <p>現実の企業・経済の動きに関心を持つ</p> <p>3. 金融・財政（税を含む）</p>	<p>・国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動について理解する。</p> <p>・現在の日本で実施されて</p>	<p>1. 「経済」に関する基本的知識（しくみや経済用語の意味など）を理解させる（関心・知識）</p> <p>2. 現実の企業・経済の動きに関心を持たせる（関心）</p> <p>3. 金融・財政（税を含む）</p>

<p>と働き</p> <p>第3節 財政のしくみと租税</p> <p>第4節 経済成長と景気変動</p> <p>第5節 戦後日本経済のあゆみ</p> <p>第1節 貿易と国際収支</p> <p>第2節 国際経済の展開</p> <p>第3節 国際経済における日本</p>	<p>のしくみと役割について理解する</p> <p>国民所得や経済成長、景気循環の概念を理解する</p> <p>国際貿易に関する基本的知識を理解する</p> <p>戦後国際経済の流れと特徴（特に先進国と途上国の立場の違い）を理解する</p> <p>国際社会における日本経済の位置を理解し、国際社会へどのように日本が貢献できるのかを考える</p>	<p>いる金融政策について理解を深める。</p> <p>・財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割について理解する。</p> <p>・戦後の日本の経済発展はどのような問題を抱えていたのか理解する。</p> <p>・貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解する。</p> <p>グローバル化が進む国際経済の特質について把握し、国際経済における日本の役割について考察する。</p>	<p>のしくみと役割について理解させる（思考）</p> <p>4 国民所得や経済成長、景気循環の概念を理解させる（知識）</p> <p>※確認テスト・評価シート</p> <p>1. 国際貿易に関する基本的知識を理解させる（知識）</p> <p>2. 戦後国際経済の流れと特徴（特に先進国と途上国の立場の違い）を理解させる（知識・理解）</p> <p>3. 国際社会における日本経済の位置を理解し、国際社会へどのように日本が貢献できるのかを考えさせる（思考）</p> <p>※確認テスト・評価シート</p>
<p>10・11</p> <p>第1節 情報化の進展と市民社会</p> <p>第2節 消費者問題と消費者保護</p> <p>第3節 産業構造の変化と中小企業</p> <p>第4節 農業と食料の問題</p> <p>第5節 資源・エネルギー問題</p> <p>第6節 公害防止と環境保全</p> <p>第7節 地域開発と都市問題</p> <p>第8節 労使関係と労働市場</p> <p>第9節 少子高齢社会と社会保障</p> <p>第10節 地方分権と地方自治</p> <p>第11節 大きな政府と小さな政府</p>	<p>・少子高齢社会と社会保障、雇用と労働をめぐる問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧問題など現代経済の特質について把握し、経済活動のあり方と福祉の向上との関連を考察する。</p>	<p>情報技術の進展による社会の変容を確認させるとともに、その問題点について理解する</p> <p>消費者問題の具体例を参考に、賢明な消費者のあり方を考える</p> <p>高度成長期後の産業構造の変化を理解する</p> <p>我が国の資源エネルギー問題及び公害問題について理解する</p> <p>日本の労使関係の特色を理解するとともに、労働問題について理解する</p> <p>少子高齢化と政府の政策について理解する</p> <p>地方自治のしくみを理解するとともに、中央政府と地方政府の役割と関係について考える</p>	<p>1. 情報技術の進展による社会の変容を確認させるとともに、その問題点について理解させる（知識）</p> <p>2. 消費者問題の具体例を参考に、賢明な消費者のあり方を考えさせる（知識・理解・思考）</p> <p>3. 高度成長期後の産業構造の変化を理解させる（理解）</p> <p>4. 我が国の資源エネルギー問題及び公害問題について理解させる（理解）</p> <p>5. 日本の労使関係の特色を理解するとともに、労働問題について理解させる（思考・関心・理解）</p> <p>6. 地方自治のしくみを理解するとともに、中央政府と地方政府の役割と関係について考えさせる（理解・思考）</p>

				※確認テスト・評価シート
12	第1節 地球規模の諸課題 第2節 核兵器と軍縮 第3節 人種・民族問題 第4節 発展途上国の経済と経済協力 第5節 経済摩擦の国際的解決 第6節 国際社会における日本の役割	・持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究し、望ましい解決のあり方を考察する。 ・諸課題の中から1つを選び、その課題について調べてまとめ発表し、望ましい解決の在り方について考察する。	世界の人口動態や食糧・資源などの実態を理解する 軍拡競争と軍縮のあゆみについて理解するとともに、民族・地域紛争についてその背景や要因について考える 国際社会における様々な経済的諸課題について理解する 国際社会における日本の地位を確認するとともに、日本の果たすべき役割について考える	1. 世界の人口動態や食糧・資源などの実態を理解させる（知識・理解） 2. 軍拡競争と軍縮のあゆみについて理解するとともに、民族・地域紛争についてその背景や要因について考えさせる（知識・理解・思考） 3. 国際社会における様々な経済的諸課題について理解させる（理解） 4. 国際社会における日本の地位を確認するとともに、日本の果たすべき役割について考えさせる（思考）
1・2	共通テスト問題演習 国公立2次試験対策・ 県外私大対策演習	これまでの学習を振り返り、共通テスト試験対策を行う。	共通テスト過去問題・センタ試験過去問題、私大過去問題を通して、これまでの学習を振り返る。	※確認テスト・評価シート 演習問題 プリント確認

授業の注意点

- (1)プリントを中心に授業を進めます。次時までプリントつづり用のファイルを準備してください。
- (2)毎時のプリントには復習のためのプリントが添付しています。授業を受けた際には、必ず復習を心がけましょう。
- (3)授業がある日は、その時間の教科書の範囲はなるべく読んでおきましょう。
- (4)章末もしくは節末に小テストを実施する場合があります。

評価の方法：下記の状況と評価の観点に基づいて総合的に判断します。

- (1)定期考査（1学期～2学期の中間・期末テスト及び3学期学年末テスト）
- (2)課題点【課題・復習プリント・小テスト・提出物の提出】

学習上の留意点

- (1)様々なつながりを念頭に、様々な情報【インターネット、TV等】で世界や社会の動きに、関心を持つようにしましょう。
- (2)様々な資料から得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける姿勢を持ち、問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする姿勢を身に着けるようにしましょう
- (3)授業を受ける際には、教科書・資料集など読み込むようにしましょう